

成鳥羽毛の変色について

畠山正光

このことについては以前にも申し上げたことがある。私の4年間の研究というよりもいつのまにか気付いたといった方が良くかも知れない。皆様の御参考になればと思い報告する。

私は昭和19年から白鳥の保護観察をしているが、自然界の白鳥の羽毛の変色については知らないし、帰北するので時期的に知る由もない。

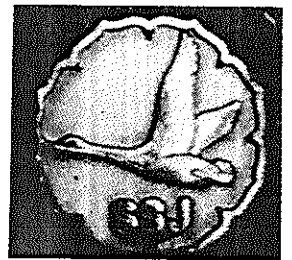
白鳥の羽毛の変色は、どんな色になるかといえば、少し黒くなる。他の鳥類と同様に変色する時期がある。私が飼養して1年目に気付いたことだが、5月頃から初まり6月から7月の終りになっても旧には復さない羽根が残る。薄墨を掃いたように純白の羽毛がうっすらと黒くなる。最初の年には汚れたのではないかと思っていたが2年目にもそのようになった。これは変だと思い、何かあると気付いた。注意していると3年目にも変化があらわれた。そこでこれは確実なる変化であると思ひ、色々思い当ることが出てきた。仮装交尾のような行動を盛んに行なう。羽根の変色と同時に嘴峰の黄色帯が退色して、白色化してくることに気付いた。このことは本県自然保護課の斎藤氏に注意するようにとのことで知ることを得た次第である。またこのごろ大変に気が荒くなる。これは、オオハクよりも、コブハクの方が強く出てくるようである。私の背中を踏み台にして頭越しに池の中に飛び込んだり、水を汲もうとしているところを体当りをくって池の中に突き落されたこともある。しかし二度とその手はくわないように注意している。この理由は他の鳥類同様に繁殖期の繁殖色であり生殖色であるということであろう。またこの時期には羽更が盛んになる。風切と尾羽根が主であるが、他の羽毛も多少交ることは当然といえるかも知れない。この状態は6月から7月

の終りに近くなって現われる。嘴峰の白化するのは雄であろうとこれも斎藤氏の言である。白鳥にも generation propagation なるものがあるということを知ったことは誠に幸いなことであった。コブハクの方がオオハクよりも人間に対しては気が強い。しかし白鳥同志ではコブハクは逃げの一手である。私が池に落されたのもコブハクである。五体完全な白鳥であれば色々と本質を知る貴重な研究もできるのではないかと思うが、如何にせん不具鳥ばかりで、毎日可愛想にと見ているだけである。白鳥は暑い夏に大丈夫であろうかと御心配なされる向きもあるが、広い場所に放任して置けば、冬鳥は夏に、夏鳥は冬に耐えて行く。自ら新しい環境に順応して行くだけの力を持っている。印度の象が北海道の札幌で暮したということでもおわかりのことと思う。大事を取って、せまいところに収容することによって、むしろ耐えて行けず死に至らしめることになる。

現在浅所に左羽を骨折して飛べない幼鳥がいるが、私はこの鳥で夏を越すのが3羽目で、3度目の経験となる。

バッジ販布

本会で制定作製した純銀バッジ、北海道でのIWRB白鳥シンポジウムに参加した世界中の白鳥学者の皆さんにも差し上げることができました。まだ少し残っていますので下記によって販布します。事務局あてご一報ください。



記 販価1個 1,500円 (送共)